- 嬉泉の新聞/第33号/1996年(平成8年)3月発行(年3回発行)
- 発行所=社会福祉法人嬉泉 東京都世田谷区船橋 1-30-9 (〒156) TEL 03-3426-2323
- 発行人=石井哲夫
- 編集人=友田篤

『家庭生活を支えるために』

「他の子は独立して行き、この子だけが残 りました。確かに手はかかりますが、夫婦だ けの生活になったら寂しいでしょうし、この 子のおかげで毎日楽しく暮らしています」山 びこ利用者のあるお母さんの感想です。一般 的には成人すれば親から独立して生活するの が普通でしょうが、重度知的障害をもつ人の 場合は、ご本人もご両親も、できる限り一緒

しかし、行動障害の激しい自閉症の青年の 場合は「やがて家庭では限界になるので、早 めに入所施設にお願いしたい」というご意見 が多いようです。ところが最近…

に暮らしたいと望むご家庭が多いようです。

「今まではパニックを起さないように、飛 び出さないように、そんな事ばかり考えてい て気持ちにゆとりがありませんでした。でも この頃はパニックも無くなり、30分間ぐら いは一人で留守番ができるようになりました。 目付きも優しくなって何かというと『おかあ たん』と頼りにしてくれます。体はすっかり 大人になってしまったのですが、今が一番子 供らしくて可愛いと思うんです」こんなお母 さんが増えました。

デイセンター山びこ(精神薄弱者通所更生 施設)の利用者の内約半数は、様々な、かな り激しい行動障害を伴っています。そこで開 設以来約3年間、職員と場に対して絶対的な 安心感を持ち、またその人の理解力に合わせ て見通しを持てるようにする事によって、利 用者が他人へのまた自分自身への信頼を回復 するように努めてきました。パニックを起す

田洋 柴

必要の無い生活を山びこで経験すると、やが て家庭でもパニックが無くなります。そうす ると、「家庭でずっと暮らして行ける」とい う見通しをご両親が持てるようになってきま す。利用者が通所施設で過ごす時間は1日5 ~6時間、1週間の全生活時間のわずか数分 の1に過ぎませんが、通所施設の役割の重要 性を改めて実感しているこの頃です。

利用者が30歳代になるとかなり落ち着い て来るでしょうし、お父さんが退職して夫婦 で協力して対応できますので、40歳代ぐら いまでは一緒に暮らせるご家庭が多いのでは ないかと思います。

そのためには、どんなに障害が重くても通 うことのできる充実した通所施設(障害者活 動センター・デイセンター)が必要です。そ の制度化をめざして全国社会福祉協議会で検 討されていますので、是非注目して頂きたい と思います。

もう一つ欠かせないのが、ショートステイ ホームです。家族の病気等の緊急一時対応だ けでなく、家族のレスパイト(休養)や、本 人の宿泊練習にも使え、しかも昼間はいつも の通りに通所(通学・通園)できるよう、住 み慣れた地域の中にある小規模なホームです。 設備もさることながら、専門職員の配置が必 要です。通所施設やグループホームに併設す るとよいでしようが、このような国の制度も 是非作りたいものです。

((社福) 武蔵野・デイセンター山びこ施設長)

いての議論が行われて久しい。し 柄を含んでいる概念なのである。 手になる考えが打ち出されない。 業で少なからず人に接する職業で る人に対して共通に要求される事 していることでヒューマンケアワ かるにその専門性に関しての決め ようがないことなのである。 かによって違ってくるとしか言い だそれがどのくらいの重みがある あればいえることであろうが、た は長年人に尽くす職業に就いてい ークという言葉がある。このこと 社会福祉施設職員の専門性につ 私がこの頃意図的に話すように 人に尽くすと言えばあらゆる職

人が何故生きるかなどと言う質問には、生まれたからには生きなければならないなどと言う単純な答えしか返ってこないが「いかに生きるべきか」ということになれば、その人の人生観に関わる答えを求めることになる。これは大変難しいことであろう。自分の人生観に触れて考えることが多くなることであろう。自分の人生観に触れずして、人の人生に立ち入ることが出来ないことは言うまでもない。とすれば社会福祉施設の職員の養成、研修には、その心構えがい。とすれば社会福祉施設の職員の養成、研修には、その心構えが

出来ているのであろうか。
一般企業の場合でも最近は、新一般企業のは、まことにぬるま湯という事業は、まことにぬるま湯という事業は、まことにぬるま湯という事業は、まことにぬるま湯という事業は、まことにぬるま湯というが増してきた人達にとっての社会福祉してきた人達にとっての社会福祉してきた人達にとっての社会福祉してきた人達にとっての社会福祉してきた人達にとっての社会福祉を生めでは、自衛隊への体験入隊をはじめとして、考えられる限りのメリカーをでは、自衛隊への体験入隊をはいめとして、考えられる限りのメリカーをである。

今社会福祉現場での職員の中で

施

設経営の創造性

ある。

そこには、何故我々にこのスローガンが必要なのかという納得できる合意が必要である。に関する本に「この仕事は何のたに関する本に「この仕事は何のたに関する本に「この仕事は何のたためにやるのか」「我々は利用者のかっためになるように考えているのか」「我々にこのスローガンが必要なのかという納得できるからになるように自問自答すること或というように自問自答すること或というように自問自答すること或というように自問自答すること或というように自問自答すること或

(その二十四)

石井哲夫

の価値観のいや応なしの自己変革薄的に問われることなどで、自分いはファシリテーターによって肉

一番困る人は、体制に逆らうこと や自分のみをいとうことにおいて をある。そのこだわりの人生の巻 き添えを食らうことで周りの人た き添えを食らうことで周りの人生 とが失われてしまうのである。そ 化が失われてしまうのである。そ たで何とかして全体の体制が、積 こで何とかして全体の体制が、積 となうに、主体となる中心勢力を が成していかなければならない。 そこにCIなどという統一的なス そこにCIなどというに

に入らないかも知れないが基本的 が求められていくのである。 は、気楽には出来ないことであっ て、適度な緊張を伴うことである て、適度な緊張を伴うことである し、その基本には人の生命や人生 の岐路の選択に関わるなどという の関わりの理念を多様に変革しう るトレランスが求められてくる。 それにしては、社会的認識や待遇 などにおいて不十分なところが気 などにおいて不十分なところが気

児を援助者という環境に関わらせ らに近寄ってくるものなのである。 求め続けることから少しずつこち まいと熱心にこちらから呼びかけ ます遠のいてしまう。見ようと見 外からは、こちらに少しも向いて あろうか。自閉症のようなおよそ である。人の心に向き合うことは の自己実現に直結することだから 実現の援助をすることが自分自身 ことは、「世の中で本当に恵まれ 社協の社会福祉施設長講座におい よい方ではないだろうか。 ンタリズムの観点からはまあまあ をしていることになるからである。 症という困難な環境に関わる修行 ようとつとめていく援助者が自閉 りが円滑に運ぶことであり自閉症 自己実現とは自分と環境との関わ をかけたりしていると関係がます 感に反応していることが分かる。 でも子細に観察していると実に敏 ている職業だと思う。相手の自己 いるが、そこでいつも言っている て社会福祉施設処遇論を担当して に社会福祉サービスにおけるボラ この関係が理解できたであろうか。 つい知らないかと思って雑な言葉 自分の心に向き合うことだからで いないように見受けられる子ども 私は全

を組んで作った看板と白い木の柵

に囲まれた『ひかりのファームド

ORT』があります。

『FORT』は、袖ヶ浦のびろ

④将来的にグループホームとし

ての利用

柱を立てて行っています。 は、活動の指針として次の4つの

ひかりのファームFORT』

地域事業推進室 石 井

病院に向かっていく途中に、丸太 長浦駅前の商店街を、さつき台 ②ボランティア活動の受入母体 ①学園利用者の社会参加として ③地域交流のためのイベントの の販売活動の拠点 企画と実施

を始めました。そうした模索の中 ていくための方策についての検討 から地域社会とより積極的に関わっ でした。そこで今年度から、地域 せるには、もう一つというところ 学園とその利用者の存在を定着さ れている関係もあり、地域社会に 学園の所在地自体が市街地から離 従来から就労実習や販売活動とい 事業推進室を設置し、様々な角度 う形で多彩に展開して来ましたが 学園の社会参加の活動としては

込めて、石井哲夫所長がつけたも 流の『砦』とならんという願いを 学園とそれをとり巻く地域との交 前は、学園の利用者の社会参加と

『FORT』の運営にあたって

した。

『FORT (=砦)』という名

して、昨年の11月にオープンしま 社会参加を目指した活動の拠点と 学園及びひかりの学園の利用者の

> 各事業所 らの報告

> > の拠点が欲しいということが希望 で、販売活動の延長として、町中

本構想が生まれました。 いました。そこでその両者を併せ をどう活用するかが懸案になって りを持つために使ってほしいと、 として出てきました。 になり、現在の『FORT』の基 て、「お店」を作ろうということ ったお父様が、真奈子さんを含め 前の場所に、ひかりの学園の利用 ご寄付下さった建物があり、それ 者である飯田真奈子さんの亡くな に嬉泉の利用者が、社会との関わ その一方でかねてから、長浦駅



うことも考えました。 町中の拠点でイベントを催して、 ただくという形をもう一歩進めて、 していく構想も膨らんできました。 ど、学園の理解者・協力者を増や ボランティアとして受け入れるな 市の社協と連携して希望する方を 展開する場としての機能や、今後 ボランティアの方々の力をさらに ごやかの店」などで活動している そこに近隣地域の方々にお出でい 従来から行っている嬉泉祭りバザ 学園の存在を知っていただくとい のように学園で催しごとをして、 それに付随して、機織りや『な また地域交流という観点からは、

域生活を送っていくためのグルー らしている利用者が、将来的に地 たのです。 活動指針の四つの柱が固まってき いう希望も出てきており、現在の プホームとしても利用できたらと さらに現在『つづきの家』で暮

きたいと考えています。 こともあって、「商品」の品揃え 後徐々に活動内容を充実させてい というのが心細い限りですが、今 日の午後2時~4時と非常に短い も「営業時間」が、火曜日~木曜 も十分とはいえませんし、何より まだスタートしたばかりという

職 員 の 思 11

8 ば

え

らこの学園へと通い始めたのです。 してくれる方もいらっしゃり、私 からには経験しておいたほうが良 が、その一方では「嬉泉に入った 大丈夫?」などと心配されました わりの人からは「忙しい所だよ… の場』で名高いところです。極楽 えば『職員に対しては厳しい研修 園からめばえ学園に転勤して来ま は、不安と期待に胸膨らませなが いところだよ、頑張って」と励ま とんぼの私の性格を知ってか、ま した。嬉泉の中でめばえ学園と言 々に抜けてきました。 ると安心感も生まれ、肩の力も徐 たものの "転勤して来たばかりで 自分の過ごし方が分かり始めてく 激を受けながらも少しずつ慣れ、 教えてくださり、日々、新たな刺 員の皆さんが一から十まで丁寧に 分からないのは当然だから』と職 私は、4月に高島平五丁目福祉 4月当初は、肩に力が入ってい

々は、養護学校高等部を卒業した 当していたグループの利用者の方 しかし、五丁目福祉園で私が担

る今、自分自身の課題を沢山抱え

そして一年が過ぎようとしてい

ながらも、輝いている子ども達を

いっというというというというというと

めばえ学園のあたたか組に入れば 報』 "恋愛話し"を友達のように ち込んでしまうこともありました。 バランスをくずさないようにする ば、一緒に楽しむどころではなく ぶや抱っこでトランポリンを跳べ なってしまったり、子どもをおん 歌いだしては途中からハミングに 幼児が対象。うろおぼえの童謡を ましてさえもらっていたのですが、 とを「先生、大丈夫…」などと励 は平然としていても、本当は慌て 語り合ったり、演歌をカラオケで なんだろう、安心できない』と言 ことで精一杯。どうやって接して んぼうでおちょこちょいの私のこ を素通りされていると感じて、落 われてるかのごとく心も体も自分 子ども達は敏感に察知し、この人 いけばと不安げな私の心理状態を "芸能ニュース"や "スポーツ情 人達が対象だったため、時には 緒に歌ったり、また、表面的に けれど、そんな私の硬かった表

> 見ていると、『めばえに来てよかっ た!』と思っています。

卒業後の進路をただぼんやりとし ものの現場の経験はほとんど無く、 として進められていて、僕はそこ た発達援助がボランティアを中心 発達に遅れのある幼児を対象とし とで始めたボランティアだった。 の出会いなのだろう。ひょんなこ ると、やはり学生時代のあの子と いるんだろう」と、今一度振り返 置くことで何か手掛かりを得られ か考えられない頃で、そこに身を に身を置いた。福祉を学んでいた たらと思ったのかもしれない。 眠そうな顔をして、お母さんに いったいどうして、僕はここに

む歌は周囲の大人たちを和やかに 手を引かれて来室する彼(当時三 折見せる笑顔や奇麗な声で口ずさ もおぼつかない感じで、しかし時 体をだるそうにしていて、足取り 遅れを現していた。服薬のためか 発作を繰り返し、発達にも大きな ていて、これまでに幾度も大きな 才)は、難治性のてんかんを持っ

動し、子ども達の変化に気付き始 情も子ども達の一生懸命な姿に感

いながら自然に綻んでいきました。 めると「上手だね、凄いね」と言

(めばえ学園)

重ねていく中でわずかではあった たのだろうかという思いも残って 分からずして彼と一緒に時間を過 ら来ていると思われる僕は、何も 感ずる一方で、いい加減な動機か きた。しかし、そうした手応えを がその成長をも実感することがで あったものの彼と触れ合い、回を ごすことを、果たして許されてい 週に一度、一年間という間では

達で来年度には家庭や地域の施設 遇事業に伴う措置を受けている人 名の利用者は強度行動障害特別処 へ戻っていこうとしている。 二年が経ち、今はひかりの学園 「はやて組」を担当している。 卒業後、嬉泉に勤め早いもので

ればならない。果たして僕にそれ 変な思いを寄せ、尽力を注がなけ ながら考えていくと、そこには大 何年後、いや、ずっと先を見据え 頃に似た気持ちなのかもしれない。 づく今となり、思うことは、あの ことをゆるされたものだろうか。 ができたのであろうか。そうする いくことは難しく、ましてそれが 一日を通してその人の生活を見て そうした彼等を送り出す日が近 (袖ヶ浦ひかりの学園)

福祉の仲間に支えられて

西武池袋線大泉学園前駅を下車 し十五分も歩くと、大通りから少 し奥まったところにコンクリート 造りの黄緑色のギリシャ風(?) の建物がみえて来ます。その一角 は周りの雰囲気とはひと味違った、 ちょっとシャレた風情です。M子 さんは、毎日、赤塚ホームの生活 寮から混雑する池袋駅を経由して、 毎朝この大泉福祉作業所に通って います。

う手応えがありました。明らかに 勢が前向きになってきているとい どもの生活的配慮とは別に、何か がありました。それは、日頃の私 していったように思います。その う、努力が求められ、次第に安定 わる事のできる安定の場となるよ 係を築くことに努め、一日も早く えば物静かで口数の少ない人とい 仕事に対する意気込みというか姿 M子さんに、ここ一、二年、変化 私ども世話人が、彼女との信頼関 う印象がありました。それだけに、 赤塚ホームが彼女にとって家に変 人寮してきた頃は、どちらかとい 彼女が、三年前に赤塚ホームに

と、きめ細かく生活の場での方でも、M子さんについて何かあったに違いありません。作業所所長さん始め担当の職員の方々で

取りにとは違うのです。 地域のでは、ではり、作をし、通勤の道も多少変わり、作り、 業所の設備自体等も新しくなったり、に疲れが見られたものの、それもい場にが見られたものの、それもいって一つの転機であったのかも知っていません。長年、慣れた馴染みのは事場から、全く使い勝手の違うは事場から、全く使い勝手の違うは事場から、全く使い勝手の違うは事場から、全く使い勝手の違うは事場から、全く使い勝手の違うは事場から、全く使い勝手の違うによってがある。

ある赤塚ホームへ連絡を下さいました。これは、M子さんが新しい環境へ早く馴染むためにも、大変有り難染むためにも、大変有り難染むためにも、活題にし、の中で、新しく出会うひとつひとつのことについて、生活の場でも、話題にし、生活の場でも、話題にし、

うに私どもは感じました。 すこしづつ自信をつけていったよりに、臨機応変に対応することにりに、臨機応変に対応することにのに、自分なりに思います。その結果、M子さうに思います。

作業所の中は、ゆったりとした空間の広がりがあり、その中に、空間の広がりがあり、その中に、いくつかに分かれた作業台があります。「ここは、ひとりで仕事をすすめることのできる人たちのグループ」「ここは、その日のうちに締切りのある仕事にあたる人たちのグループ」「ここは、自主生ちのグループ」「ここは、自主生ちのグループ」という担当職員の方のお話を伺いながら、その場その場で仕事をされている人たちの、手つきのしっかりしていること、その仕事に携わる人たちの、手つきのしっかりしていること、その世事にあると、その場をの場で仕事をされている人たちの、手つきのしっかりしていること、その中に取り組んでいる姿勢の安定していること、その中に、

の袋詰め、職員の方々が苦労され 詰めや箱造り、子ども雑誌の付録 とても温かい雰囲気を感じました。 ことだと感じました。 けられるということは素晴らしい がちですが、生き生きと仕事を続 たり前のことのように受けとられ 信あり気でした。このことは、当 携わっている方も、どことなく自 こと請け合い)など、どの仕事に アイデア抜群、 縫いぐるみや写真立て(これは、 結婚式の引き出物のお砂糖セット たちの豊かでとても良い表情をし ておられること、こうしたことに、 て開発されたというさおり織りの 見ると欲しくなる

もうひとつ印象に残ったことは もうひとつ印象に残ったことは でんまりした所の方が仕事がしや されており、そこでもまた、ゆっ されており、そこでもまた、ゆっ たりした雰囲気で、仕事がすすめ られていました。M子さんは、昨 年から今年に掛けて、作業所で、 会計担当や行事の実行委員に選ば れ、新しい役割への挑戦の連続で れ、新しい役割への挑戦の連続で おったようです。それをやり遂げる度に少しづつ自信の山を築いた に違いありません。M子さんへの に違いありません。M子さんへの

(赤塚ホーム 金沢裕子)



嬉泉の出来事

· 考明等 · 考明等

寮 育 溝 座〈子どもの生活研究所〉

自閉症の心に関わるー

問題に関して、「例を挙げて子ど のです。恒例のこのお話合いでは、 の方を対象に毎学期行っている石 ました。これは子研のめばえ学園 座』を12月8日と12月15日に行い 自閉的なお子さんや利用者の人の 井所長のお話合いを発展させたも ・こぐま学園、袖ヶ浦のびろ学園 お話をして頂いていました。 今の社会的な情勢」などの幅広い このお子さんたちへの福祉的な 持って子どもたちを育てていくか くか」「どういう価値観や理念を もたちの気持ちをどう理解してい ・ひかりの学園の利用者の保護者 今年度の新企画として『療育講

閉症の家族の方や地域の方など自なく、学校や施設の職員の方や自なく、学校や施設の職員の方や自なく、学校や施設の職員の方や自なく、学校や施設の職員の方や自なく、学校や施設の職員の方とでは、この石井所長のお話

という企画をたてました。く理解していただく機会にしたい的なお子さんや療育について正し閉症を巡る幅広い方を対象に自閉

人との関わりを薄めたり、自分のにくいと言うことがあり、その為にくいと言うことがあり、その為いができまりにのと言うことがあり、その為いといい。原育の基本』とい



世界を作ろうとし、保育園や学校での孤立がますます自閉症を社会から引き離してしまう。このような大きな障害を早期から改善していただまなたるような援助の必要性と、験出来るような援助の必要性と、そのための方法論を語っていただきました。

第2回は、『年長自閉症者の問題』というテーマで、社会福祉施設で行われている年長自閉症者の設む行われている年長自閉症者の接助実践から、例え歪められ萎縮接助実践からの暖かい理解と広い生会の側からの暖かい理解と広い生生活が得られる、ということに関生活が得られる、ということに関したお話しを伺いました。

大変意義深いこの療育講座に対して、世田谷区及びNHK厚生文化事業団の後援を得て、会場の区民センターに200名近くの方々が集まりました。事後のアンケーがから、「自閉的なお子さんへの関わりを反省した、自分の関わりを反省した、自分の関わりを反省した、自分の関わりを反省した、自分の関わりを反省した、自分の関わりを反省した、自分の関わりを板りな事例の話を聞きたい、これからもこういう企画を続けてほしからもこういう企画を続けてほりからもこういうで要望や、「時間が短い」というご要望や、「時間が短い」というご要望や、「時間が短い」というご要望や、「時間が短い」というというでは、

けたいと思っています。
数の方に聞いていただく機会を設めの方に聞いていただく機会を設いるができました。いうご注文などを多数頂きました。

(小山 松子

〈袖ケ浦〉

自閉症児治療教育実践講座

に見学にいった。このところ常に頭にあることのこのところ常に頭にあることのこのところ常に頭にあることの

電卓をはじき、一言。 学園の飼料の配合をみせると、

「粗タンパクです。 16%は必要「シーピー?」

自分の無知を恥じ、専門家とはこうありたいものだといたく感じるところがあった。
さて、セミナーであるが、自閉
さて、セミナーであるが、自閉

症児者への援助技術」というテー先日、2月16日~17日に「自閉

座も12回を数えた。

できた。催し、盛況のうちに終えることが協力センターの2ケ所を会場に開マで、学園と幕張の海外職業訓練

セミナーが始まった当初はカウセミナーが始まった当初はカウを重ねるうちに、全国にが、回数を重ねるうちに、全国に自閉症者施設も増え、各施設での自閉症者施設も増え、各施設でのも問題行動から作業、社会参加、もお強度行動障害と多様に変化してきた。

たが、徐々に施設や療育機関で実えている。最初のころは大学等で教ている。最初のころは大学等で教

たが、徐々に施設や療育機関で実

はった。今回も抱っこ法の立場、なった。今回も抱っこ法の立場、なった。今回も抱っこ法の立場、理題学習の立場、受容的交流理論の立場、また強度行動障害の療育現場で実践をしている若い世代の方に講師をお願いした。 フロアの反応は評価が分かれるところであったが、こうした若いところであったが、こうした若いところであったが、こうしたおいるよい。

自閉症の療育の歴史は浅い。その困難な状況の中で先人は道を切の人達が年齢とともに症状が変わり、また自閉症を取巻く時代が変わり、また自閉症を取巻く時代が変わられることにより、いつも新たな課題が生れ、また、新たな専門性が変められることになるのであろう。そこにセミナーの意義もあるのだろう。研鑚、研鑚である。

(川相 智史)



赤塚福祉園 成人の祝い

塚ホームから一名、合計九名の利三名、生活実習施設から五名、赤塚福祉園では「成人の祝い」を催塚福祉園では「成人の祝い」を催

迄慈しみ育まれて来られた親御さ ましても、その理解と感じ方は様 深い感慨の念をお持ちのことと思 を迎え、息子さん、娘さんをこれ 利用者が二十歳という人生の節目 な行事の一つであると思います。 すが、その中にあっても、この 様々な行事を企画し実施していま 用者が成人を迎えました。 ていたと思います。 こと?」との雰囲気は一様に感じ 々だと思いますが、「何か特別な います。また、利用者本人にとり んの気持ちを拝察しますと、一際 「成人の祝い」は、最も意味深長 赤塚福祉園では、年間を通して



らのことですが、特に、祝いの茶 回を数えますが、これ迄にも、祝 来、「成人の祝い」は今回で第三 願い続けたいと思います。 樹として今回は柚を植樹しました。 免状を取得している町田園長の指 利用者に感じて欲しいとの思いか れてきました。いずれも、前述の した。赤塚福祉園が開設されて以 いの茶会、書初め、記念植樹、 導に拠ります。記念植樹は、果実 ています。祝いの茶会は、茶道の を、薬玉割りには遊楽を象徴させ 会には学習を、記念植樹には労働 三つの所為は、その式次第に含ま いの茶会、記念植樹、薬玉割りの 玉割りを新成人の利用者が行いま 何か特別なこと?」を新成人の 今回の「成人の祝い」では、 新成人の利用者の幸福を今後も



させる事になろうとは……

独立第27号

利用者の山岸が編集長をしています。 ひかりのタイムスは、嬉泉広報責任者の友田氏がアドバイザーで、

ダイエーの仕事を通し て自分を見詰める (その1) 裕

前 き

はそれを答えるのも面倒なので、 てして整理してまとめたい。 たい。非常に長くなるので、 この紙面を借りてその感想を述べ 仕事は何ですか」と聞かれる。私 嬉泉の職員からよく「ダイエーの ダイエー入社時のいきさつは嬉 このダイエーの仕事をした時、

かもしれない。私に35年の膿を出 が逮捕された時期に入社した記憶 泉新聞で大川氏が述べている。 この事は不吉な予兆があったの 確かオウム事件の麻原彰晃被告

> 施設生活で染み付いた習慣が社会 を通してさまざまな課題、 迎えている。私もダイエーの仕事 事件等の事件が続出して曲り角を 震災・オウム事件・沖縄少女暴行 で摩擦を起こした。 日本は戦後50年を迎えて阪神大 、難題、

広告値段票打ちという仕事

になったのか。 自分を内省に向かわせるきっかけ ではどういう事が摩擦になり、

店でやるイベントの広告制作・掲 うと商品を店で売る時、 その内容は広範囲に渡る。(a) アピールする広告伝達手段であり、 れているが、POPとは正確に言 段票を打つ仕事と嬉泉新聞に書か に原因がある。この仕事はよく値 種のメディアといってもいい。 整理してみよう。まずこの仕事 (b) ①店、又はダイエーが 消費者に

> の商品広告制作、②又はチラシ・ のぼり等の販売促進資材の掲示。 行うセール、(一の市、大均一祭

PRする。それの制作。(f)店 ンタイン・新入学・クリスマス等 で売る商品広告の制作(g)バレ (e) 店が消費者向けサービスを (c)従業員の異動の掲示、 d) 店で従業員向け告知の制作、

の季節商品の広告制作。 (g) の3つのみ。 私がやるのは(b)①②、(f)、

場で申請書を店課長の印鑑を貰っ て来る。 ストフーズの店、テナントとして 子会社の洋品店、時計店、ファー れる。店の各売り場とダイエーの テランの担当者が主にやる。 入っている専門店も原稿を申請し て私の配属先の営業企画課に渡さ (b) ①と(f)、(g) は各売り (a)、(c)、(d)、(e) はヴェ

取り付け、(a)のポスター掲示 数の自由化、削減に伴い『店を水 和で営業時間の自由化、店休業日 模店舗法(略称大店法)の規制緩 展開セールのぼり・チラシ・大規 撤去と慣れるに連れて仕事も増え 業します。といった告知のぼりの 曜日も営業します。夜9時まで営 (b) ②はダイエーが行う全国

それは後述したい。 た。それに伴い問題点も増えた。

「ら」抜き言葉と衣料品 言葉とロゴ広告

私にはとまどうばかり。 費者向けに訴えるのか今もつて良 品の広告を打つ時は困った。広告 着心地と出てくる。これがなぜ消 範囲に売っているわけだが、衣料 く分からない。 コピーに裏起毛、裏ボア、着回し、 さて当然GMSなので商品を広 服装に興味のない

はこちらで書き直して印刷する。 稿をよこしてくる。そういう場合 には通じない意味不明の言葉で原 おはを間違えたり、内容がこちら 才能でこれに取り組んでいる。 広告コピーを書く担当者がてに

それでも持って生まれた文章の